

H-PAF NEWS

Hokkaido Performing Arts Foundation

夏の再演3作品。原点からのご縁に導かれて…

公益財団法人北海道演劇財団 理事長 斎藤 歩

今年度の上半期、予定していた夏の3作品「亀、もしくは…」「西線11条のARIA」「アラジンと魔法のランプ」、その連続公演を無事終えることができました。いずれも私が深く関与している作品でしたので、務め上げられるか、実は不安でした。何とか無事に終えることができ、いずれの作品も、予想を超えた数の観客の皆様にご覧頂けたこと。感謝しかありません。



札幌座Pit「亀、もしくは…」札幌公演
(会場: 扇谷記念スタジオシアターZOO)

6月に公演した「亀、もしくは…」は、まずシアターZOOで公演しましたが、追加公演が必要なほどの前評判を頂き、すべて完売。続いて公演した清田区民センターも、前売券完売。そして帯広の平原通り小劇場の柿落としを任された久しぶりの帯広公演もすべて完売でした。

初めて公演した美瑛町民センターでの公演は、第一回美瑛フェスティバルに参加するかたちで2日間公演させていただきました。実は、この美瑛公演が久しぶりに「亀」を再演しようと思ったきっかけを私に与えてくれたのです。

今から29年前、1995年に札幌で初演し、函館・帯広・富良野でも公演した最初の「亀」の噂を聞いた、当時東京国際舞台芸術フェスティバル(現F/Tフェスティバル/トーキョー)のプロ

グラムをなさっていた市村作知雄さんが「一回観せてよ」と仰るので、1996年に札幌で再演し、翌年1997年の東京国際舞台芸術フェスティバルに招聘してくださったのです。これが私にとって最初の東京での演劇公演となり、その後私が東京で様々な仕事をさせていただく大きな足掛かりとなったのです。

昨年の春先だったか、その市村さんがフラリと演劇財団の事務所に現れて「今度さあ、美瑛でフェスティバル創るから『亀』やってよ」と仰ったのです。1年後の体調がどうなっているか、かなり不安だった私でしたが「大丈夫だよ、生きてるよ」と強く仰る市村さんに唆される形で、再演を決めたのでした。

2017年にサハリンで公演して以来の「亀」でしたので、キャストをどうするか考え1995～99年、最初に札幌で「亀」を創作した時の俳優・宮林康くんを東京から招こうと思い電話をすると、「ギャラはどうでもいいからやらせてほしい」と快諾してくれて、これも初演から参加してくれている山野久治さんと久しぶりに「亀」の原点ともいえるかたちで改めて創作・公演することができました。主役のヤーノシュは、東京乾電池の川崎勇人くんによってもらいました。

川崎くんは、続いて公演した7月の札幌演劇シーズン2024に参加した「西線11条のARIA」に初演から出演してくれていた札幌座の前身・TPS出身の俳優です。

林千賀子も久しぶりに旭川から駆けつけてくれました。再演を決めた当初は私が出演する予定ではなかったのですが、「亀」で市村さんから唆された勢いで、私も初めて出演することに決め、舞台上で林千賀子の顔

を何度も見返し、覗き込み、驚き続け、これも初演から出演し続けてくれている磯貝圭子と毎日電停に座って、炊きたてのゆめぴりかを食べ続けました。



札幌座「西線11条のARIA」
(会場: ジョブキタ北八劇場)

そして8月に札幌市こどもの劇場やまびこ座で公演した、劇のたまご「アラジンと魔法のランプ」。音楽をいくつか改変し、あとは演出の清水くんに任せて、私は駆け込むようにがんセンターに入院し、無事に何とか夏の3作品を終えることができたのです。

今は、11月に迫る今年度最大規模の新作公演「民衆の敵」に向かっています。

自ら立案したのではなく、40年も演劇をやって来た数々のご縁に導かれ、励まされるかたちで、この夏を乗り越えさせていただきました。



劇のたまご「アラジンと魔法のランプ」
(会場: 札幌市こどもの劇場やまびこ座)

(写真: 高橋克己)

第一回美瑛フェスティバル 札幌座「亀、もしくは…」 北海道演劇財団 芸術監督 清水友陽・演劇ワークショップ

美瑛町まちづくり推進課 地域プロジェクトマネージャー 熊倉 聖子

2024年6月17日～18日、美瑛町で開催された「第一回美瑛フェスティバル」にて、札幌座「亀、もしくは…」の上演と、清水友陽氏による演劇ワークショップを実施していただきました。「美瑛」といえば丘が連なる農業景観や、「青い池」や花畑などの観光イメージが強いと思いますが、近年は急速な人口減少やオーバーツーリズムなど様々な課題も抱えています。

先人たちが厳しい自然に向き合い切り拓いてきた美瑛の風土を次世代に繋いでいくためには、既存概念を超える視点や創造性が必要ではないかという町長の思いから「アートのあるまちづくり」施策が始動し、その第一弾としてフェスティバルが企画されました。ディレクターは、プロデューサーとして国内外の先端的な作品を紹介されてきた市村作知雄氏が務められ、そのご縁もあって札幌座の美瑛公演が実現しました。

TEAM NACS森崎さん×若手アスパラ農家のトークショー、橋爪功さんの朗読会、岩下徹さんの野外公演、シンポジウムにワークショップ…初回にして盛りだくさんのラインナップ。一方、これまで美瑛町では本格的な演劇や舞台に触れる機会が殆どなく、会場の多目的ホールには図面も機材リストもない状態からのスタート。人口9300人に対し観光客は年間240万人も来るけれど、演劇の“観客”はいったいどのくらい集まるのか？これまでの文化事業はほとんどが無料なのに、はたしてチケットは売れるのか?? 不安も募りつつ、まったくの手探りで準備が進んでいきました。

札幌座さんの代表作でもある「亀、もしくは…」今回は初演メンバーが（お一人除いて）揃い、札幌も帯広も完売、残るは美瑛公演のみ、という期待と（プレッシャーと）が高まる中で迎えた本番。

札幌座のみなさんが美瑛に到着されて、照明や音響の仕込みが始まると、いつもの見慣れたホールが劇場空間に様変わり…リハーサルで席に座らせてもらい暗転になった瞬間、涙が溢れてしまいました。

実は、私が「亀」に出会ったのは今から27年前、大学1年生のとき。

札幌で生まれ育った私は、小学5年生で初めて舞台に触れて以来、ずっと劇場に憧れを持ちつづけ、演劇と社会をつなぐ人になりたいと上京。大学のパソコン授業ではじめて”検索”をして行き当たったのが『A.G.S「亀、もしくは…」』という文字だけのページでした。そのホームページは「市村作知雄のページ」という謎のタイトルだったのですが、札幌座の前身である「A.G.S（アーティスト・ギルド・オブ・サッポロ）」の東京公演のことが書かれていたのを見て、市村氏にコンタクトをとったのでした。

その後、国際芸術祭の制作や、アートセンターの立ち上げ等に従事することとなり、リージョナル・シアター・シリーズ「冬のバイエル」公演の際には、眼光鋭い斎藤歩さんに「頑張ってるね」と声をかけていただいたことをよく覚えています。

あれから約20年、劇場の現場からは随分離れていましたが、2年前に曾祖父母が開拓したルーツのある美瑛に移住

し、役場でまちの中と外をつなぐ関係人口創出を担当することになりました。そこで、子どもの頃に夢みた劇場の世界と美瑛のまちの未来をつなぐことができなにかと思い立ち、市村さんに連絡をしたところ「それなら亀をやるよ」ということになり…巡りめぐって、美瑛に亀が辿り着きました。

チケットを買ってくれた町民が一人、また一人と集まってくる姿をみてまた涙…役者さんたちの絶妙な演技に子どもの笑い声が響くのにも、歩さんの圧倒的な存在感にもまた涙…（涙もろくてすみません。）。美瑛の青い夜空に、プカプカと浮かぶ亀。隣で観ていた小3の娘の心には、どのように映っていたのでしょうか。

フェスティバル後半には、北海道演劇財団・芸術監督の清水友陽さんに演劇ワークショップをしていただきました。廃校になった小学校の校舎やグラウンドをいっぱいに使って、それぞれの感覚や言葉に耳を澄ませ合い、最後にはグループでちいさな作品を発表するところまで、表現の楽しさを味わう時間となりました。町内の中学生が参加してくれたのも嬉しかったです。

先日「劇のたまごシリーズ」のアラジンと魔法のランプを観に伺いました。老若男女がみんなで笑ったり踊ったりできる空間、美瑛にもあったらいいなあ、と夢が広がりました。美瑛の子どもたち、美瑛につながる若い人たちの心に、アートの種まきを続けていけたらと思っています。

「西線11条のARIA」と私

ジョブキタ北八劇場 事務局長 笠島 麻衣

何を隠そう私は「西線11条のARIA」のファンであり、本公演の会場となったジョブキタ北八劇場の者としても、この度の公演について語りたいことが多々あります。なにせ10年ぶりの公演です。待ちに待った本作を、ジョブキタ北八劇場で堪能できたことは、とても嬉しく、僥越ながら大変感慨深いものがありました。

本作は、初演となる2005年から（同年12月こまばアゴラ劇場にて、2006年1月シアターZOOにて初演）再演を重ねてきましたが、その度に、それぞれの公演趣旨や移りゆく時代に応じた演出、設えで観客を「西線～」の世界に誘ってくれました。

札幌座がTPS（シアタープロジェクト さっぽろ）として活動していた2011年3月の再演時は、『TPSレパトリーシアター』と銘打ち、1か月に3作品を連続上演する（「秋のソナチネ」、「アンダンテ・カンタービレ」、「西線11条のARIA」いずれも斎藤歩さんによる作・演出作品、シアターZOOにて）という、とてもチャレンジングな取り組みの中で上演されました。またこのロングラン公演中に、東日本大震災に見舞われたことを、決して忘れることができません。当時私はシアターZOOの小屋付きとして公演に関わっていました。精神的、物理的な安全性の面でも公演を継続してよいのか…死者を描く「西線～」を上演すべきなのかどうか、関係者一同それぞれが思いを巡らせました。そして、このことがきっかけで、生身の人間が時間と空間を共有する舞台芸術、劇場の役割について

思いを強くしたことも、本作がもつ、物語のちからによるものなのだと感じています。

その後、2014年2月には札幌市教育文化会館小ホールでの再演がありました。この時は、今回と同様に、札幌演劇シーズンのラインナップのひとつとして、また公演期間がさっぽろ雪まつりの開催期間中だったこともあり、これまでと少し異なる客層の方々にも観ていただくことができた記憶があります。北海道教育大学岩見沢校の学生さんがゲスト楽団として、また1公演限定で札幌市長が出演されたことも当時の公演ならではの演出だったように思います。この時、私は制作スタッフとして公演に関わっていました。広報宣伝を行うなかで、縁あって蘭越町のとある町内会の皆さんがバスを貸し切ってご観劇にいらっしゃったのですが、そこにはもちろん米農家の方も多く、劇中、高らかに発せられる“蘭越産のほしのゆめ”という言葉に歓声があがったときの、客席のあの一体感…とても印象的でした。

さて、前置きが長くなってしまいました。本題です。2024年7月、真夏の再演となった今回は、これまでと大きく異なる部分がありました。作・演出の斎藤歩さんがついに、ご出演されたのです。この一報を聞いた時は、非常に驚き、初演から20年近く経って、また新たな「西線～」を楽しむことができるのだと嬉しくなりました。もう一つ、印象的だったのは、新たに加わった舞台セットでした。本作の舞台となっている西線11条駅の停留所から見える山々の稜線を象った

パネルが新たに舞台に立ち、しきりに降り注ぐ雪と相まって、冬の札幌の景色を感じさせてくれました。このパネルが加わったのは、やはり会場がジョブキタ北八劇場だったから、なのではないかと予想しています。今回の会場は今年2024年5月にオープンしたばかりの民間の小劇場です。実は、この劇場の生い立ち、舞台の広さ、天井の高さ、観客席数など、設計の初期段階に斎藤歩さんは大きく関わっており、「西線～」をこの劇場で上演することについて、以前からお話が出ていたという経緯もあり、公私ともに、待ちに待った公演だった、というわけでございます。

観客は、舞台上で実際にご飯が炊けていく匂いと湯気に誘われて、気づいた時には西線11条駅の停留所で一緒に座してお米を味わい、姉が歌うARIAを聞きながら、さっきまで隣にいた死者たちに何かを願い、祈りながら見送ります。翌朝はきっと、始発が出る前に市営交通の方がこの停留所にやって来て、彼らの食器を片付けて、また絶品の北海道の幸、ご飯のお供を用意してくれるのだろうか、と色々に思いを馳せてしまうのです。まだまだ語り尽くせていない、語り合いたい、伝えたい「西線～」の魅力がありますが、これから先も「西線～」と私の思い出が増えていくことを切に願って、まず今日はこれぎり。

札幌演劇シーズン2024キッズプログラム・劇のたまご「アラジンと魔法のランプ」北海道演劇財団 常務理事 磯貝 圭子

8月10日から17日まで、札幌市こどもの劇場やまびこ座で全7ステージの公演を行いました。アラジンの初演は2022年5月。コロナ禍で集客に苦戦しましたが、観てくださったお客様からは大変好評で、もう一度観たいとの声をたくさんいただき演劇シーズンに出品となりました。

今回の公演では、昨年度に続き協賛社の北海道新聞社様から「若い世代の方々の観劇の機会を増やすお手伝いがしたい」と招待券のご提供をいただき、札幌市子ども未来局様を通じて札幌市内の児童養護施設・母子生活支援施設の方々50組100名様をご招待しました。このご招待の他にも、やまびこ座さんのご協力もあり、東区内の複数の児童会館から団体でお申し込みをいただくなど、劇場は連日たくさんの子供たちで賑わいました。

前説で劇たまのダンスを元気いっぱいに踊ったり、劇中観客を巻き込む場面ではキャストからの呼びかけに大きな声で答えてくれたり、終演後も「キュッキュッキュキュー」と歌いながら劇場を後にする子供たちの姿を目にして、この作品を楽しんでもらえたことを実感しました。

上演期間中の8月11日と12日には、終演後の舞台上で「やまびこ座夏休みこども演劇ワークショップ」を実施。市内の小学生20名とアラジンを元にしたオリジナルのお話を作り、実際に公演で使用中の舞台セットを使って発表するという、創作体験をしてもらいました。

トータルで905人のお客様にご来場いただき、アラジンの公演は終了。子ども未来局経由でご招待した施設の方から「子供たちが帰ってくるなり

『楽しかった』『面白かった』と口々に感想を教えてくださいました。子どもたちにとって、夏休みの楽しい思い出が出来てとてもありがたく思います。」とお手紙をいただきました。

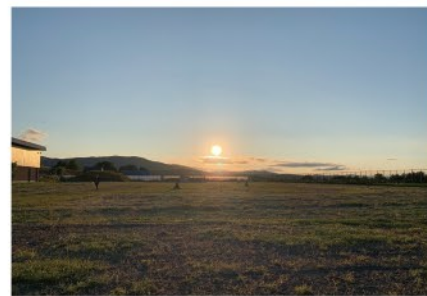
大人も子供も楽しめる作品をつくるというのが劇たまのテーマの一つですが、今回の演劇シーズン参加を経て劇たまファンになって下さった大人のお客様が増えたことも大きな収穫となりました。



「アラジンと魔法のランプ」子ども未来局贈呈式

北海道演劇財団 芸術監督 清水 友陽

最終日、天気が良かったので、外に出て活動を行いました。体育館の跡、広がる畑、沈んでゆく太陽、土の匂い…自分自身を見つめる、贅沢な時間が流れました。色々な人たちが集う場所と空間をデザインすることも、ワークショップの現場に必要なことだよなど、再確認した現場でした。



美瑛ワークショップ風景

小さなことから……。

岩本・佐藤法律事務所

弁護士 岩本勝彦 弁護士 佐藤昭彦
 弁護士 中澤拓朗 弁護士 増田 翔

〒060-0042 札幌市中央区大通西9丁目キタコーセンタービルディング6階
 電話：011-281-3001 FAX：011-281-4139

距離と時間のはなし

intro イトウワカナ

2018年、シアターZOOでの公演が終わりintroは活動を休止しました。その年に私は、大阪へ移住しました。正直な話、ちょっと疲れていたのです。それまで、それなりにアクティブに活動してきましたが、劇団そのものも体力の限界でしたし、私は生まれ育った札幌の街と少し距離を置きたかった。

移住後、同業者である夫の劇団で作品を書き下ろす機会があり、改めて自分の書く作品と向き合いました。「砂利はポルカで踊る」という作品は、第28回OMS戯曲賞の最終選考まで残りました。大阪という街で評価をしていただけた、まだ劇を書けるという喜びがありました。作品を観た若手のプロデューサーからコメディを書いて欲しいという依頼を受け書いたのが、「大皿インダハウス」という作品。introのメンバーが大阪まで観に来てくれたのですが、「私たちもこういう作品がやりたい」と言うわけです。

ちょうどその頃、劇団で劇をつくりたい欲求がメンバー皆に起き始めており、劇をつくるためのアレコレをほぼ全て、オンライン上で公開しながら次回公演を作っていく、「introの次回公演」という企画を2021年から始めていました。次回公演のことだけではなく、これまでのことや、どうでもいい話などを延々と毎週しつつける、さながら、稽古のあとの立ち話のような、飲み会のような、そういう時間

だけを持ち続けていたわけですね。コロナ禍ということもあり、オンラインで進めていくことにさほど抵抗もなく、そもそも私たちは物理的に離れているのでそれしか方法がなかったとも言えます。

私の脚本の傾向はワンシチュエーション会話劇ですが、演出の傾向と指向は会話劇を魅せるタイプではありません。このことに長年苦しんでいたのも事実です。どうなるかわからないけども会話劇コメディやってみるか、と始まったのが「ハワイの地平線、テキサスの水平線」です。みんな喪主がやりたい喪主争奪コメディ、というコンセプトが固まり、ついに公演をしようと腹を括ったのは2023年でした。私たちが活動休止した劇場はシアターZOOですから、活動再開はシアターZOOでと決めていました。じゃないと筋が通らないでしょう。

札幌公演は、お客様を迎えるつもりが、逆にお客様の温かい拍手に迎えられ、待っていてくださった方がこんなにもいらっしゃったのだと驚き、本当に嬉しい日々でした。おかげさまで作品の評価もいただき、札幌演劇シーズン2025への参加も決まりました。初演翌年での演劇



intro「ハワイの地平線、テキサスの水平線」(写真:原田直樹 (n.foto))

シーズン参加はかなり早いスピード感と思いますが、もう一年この作品ができるということが、私だけではなくintroにとっても良い効果を生み出していると感じています。その最中での大阪公演はやはり、札幌公演とは違う質感の作品になりましたし、来年へ向けて作品を磨き続けていけるという確信と共に、座組に対しての信頼も深まったと感じています。

ひとつの作品を長い時間をかけてつくっていきたくと常々思っていますが、演劇という形態では困難な場合が多いです。が、幸運なことに「ハワイの地平線、テキサスの水平線」という作品では、長期で作品を作っていくている。むしろ、大阪と札幌の遠距離劇団では距離に比例した長い時間が必要なのだということなのかもしれません。

憧れのシアターZOO

劇団・木製ボイジャー14号 代表/ヒュー妄 前田 透



9月2〜3日の二日間で、照明家の竹屋光浩さん発案・主導でシアターZOOメンテナンスを行いました。内容としては、照明機材の一斉点検や清掃、交換ケーブルの作成のほか、作業用ライトの吊り位置の変更などなど。経験がない方はいまいちピンと来ない作業かと思いますが、これにより、限りある時間の中で行わなければならない仕込み作業を快適かつ効

率よく行えるようになったのです。竹屋さんや、参加して下さった照明家の皆さんが「これでもっと使いやすくなる! やったー!」と喜んでいました。

私も「やったー!」と思っています。というのも、私、前田透は今年の5月からシアターZOOの仕事を手伝い(?) 始めましたものから、利用する方が喜んでくれるというのがとっても嬉しいのです。さて、ではそのためには何が出来たらうか。そう思って、不定期にはありますが「シアターZOOのポッドキャスト」というものを始めました、これまで3回配信しています(Webラジオのようなものです)。宣伝に繋がる告知や終演後の裏話、シアターZOOで上演した作品の昔話など様々語り合っています。些かニッチなトークをしている気がします。この創り手との

「つながり」を発信していくことが、さらに劇場を育ててくれるんじゃないだろうか、と思っています。

ものすごく当たり前のことですが、お客様に劇場に足を運んでいただくためには、演劇がなくてはなりません。この劇場を使ってもらわなければなりません。シアターZOOでやるのが憧れ! と思ってもらえたりしたら万々歳です! ので! 利用して下さる団体の方には、シアターZOOをもっともっと使いこなしていただき、たくさんのお客様をさらに唸らせるような作品を生み出していただきたいと思います。使いこなしていただくために私はアレやコレやの道具やいろんな懐を用意していこうと作戦を練っていきます。皆さんにこの劇場にたっぷりハマっていただきたい! まずは、作戦会議!

演劇の企画・制作事業

《演劇公演》

- 札幌座Pit「亀、もしくは…。」
(原作:カリンティ・フリジェシュ 脚色・演出:斎藤歩)
6月6日(木)～7日(金)札幌公演(4回公演)[シアターZOO]
6月9日(日)清田公演(1回公演)[清田市民センター]
6月15日(土)帯広公演(2回公演)[平原通り小劇場・柿落とし公演]
6月17日(月)～18日(火)美瑛公演(2回公演)[町民センター「美丘」]
- 札幌演劇シーズン2024 レポートリブプログラム作品札幌座公演「西線11条のエリア」
(作・演出:斎藤歩)
7月20日(土)～27日(土)(9回公演)[ジョブキタ北八劇場]
- 札幌演劇シーズン2024 キッズプログラム作品劇のたまご「アラジンと魔法のランプ」
(作・演出:清水友陽)
8月10日(土)～17日(土)(7回公演)[札幌市こどもの劇場やまびこ座]

《ワークショップ・講師派遣》

- 株式会社ケン・ホテルマネジメントキャビン北海道「新入社員ワークショップ」
4月4日(木)(1回)[プレミアホテルCABIN札幌 会議室]
講師:磯貝圭子
- 株式会社モロオ「新入社員ワークショップ」
4月9日(火)(1回)[株式会社モロオ 会議室]
講師:清水友陽
- 厚別高校スタートアップワークショップ
4月10日(水)～11日(木)(2回)[北海道札幌厚別高等学校]
講師:磯貝圭子、熊木志保、前田透ほか
- 厚別高校ワークショップ
4月10日(水)～12日(金)(3回)[北海道札幌厚別高等学校]
講師:磯貝圭子、竹原圭一、戸澤亮ほか
- 北星女子高等学校スタートアップワークショップ
4月15日(月)～16日(火)(2回)[北星学園女子高等学校]
講師:清水友陽、田中春彦、中野葉月ほか
- 札幌心療福祉専門学校ワークショップ
5月11日(土)(1回)[札幌心療福祉専門学校]
講師:清水友陽、田中春彦、中野葉月ほか
- 立命館慶祥中学校ワークショップ
6月19日(水)～7月18日(木)(5回)[立命館慶祥中学校]
講師:磯貝圭子、西田薫、熊木志保ほか

- 美瑛ワークショップ
6月24日(月)～26日(水)(3回)[地域人材育成研修交流センター]
講師:清水友陽
- やまびこ座夏休みこども演劇ワークショップ
8月11日(日)～12日(月)(2回)[札幌市こどもの劇場やまびこ座]
講師:磯貝圭子、清水友陽
- 洞爺中学校ワークショップ
9月12日(木)～18日(水)(2回)[洞爺湖町立洞爺中学校]
講師:熊木志保、前田透

劇場運営事業

《シアターZOO企画・提携公演》

- ru企画2024耳で味わう文学『百年』を爪弾く(札幌)[提携]
(作:川上弘美「溺れる『百年』」 演出:斎藤歩)
4月16日(火)(2回公演)
- ポケット企画「さるヒト、いるヒト、くる」(札幌)[提携]
(作・演出:三瓶竜大)
5月3日(金)～6日(月)(8回公演)
- 最強の一人芝居フェスティバル北海道版「INDEPENDENT:SPR24」(大阪)[提携]
5月18日(土)～19日(日)(4回公演)
- 帯広演研「さらだ殺人事件」(帯広)[提携]
(作:別役実 演出:富永浩至)
5月25日(土)～26日(日)(2回公演)
- yhs「トライアル」(札幌)[提携]
(作・演出:丹治泰人)
6月26日(水)～30日(日)(6回公演)
- 我等、敵モドキ 大爆発的短編演劇祭「BOOOOMB!!!」(札幌)[提携]
7月19日(金)～21日(日)(8回公演)
- intro「ハワイの地平線、テキサスの水平線」(札幌・大阪)[提携]
(作・演出:イトウワカナ)
7月26日(金)～28日(日)(5回公演)
- シアターZOO照明ワークショップ(札幌)[企画]
9月2日(月)～3日(火)(2回)

《シアターZOO一般貸出》

6団体 29日間

『演劇支援自動販売機』にご協力を!

2011年から北海道キリンビバレッジ株式会社様と連携し、「演劇支援自動販売機」による演劇支援を行っています。自動販売機を気軽に利用して頂くことで、北海道・札幌の演劇を応援! 売り上げの一部が当財団の演劇振興事業推進に使われています。現在、シアターZOO入口ほか、市内7か所に設置されています。

《設置協力社一覧》

- ・愛犬美容看護専門学校
- ・アクトコール株式会社
- ・キャトレール中島公園
- ・北海道文化放送株式会社
- ・株式会社ノヴェロ
- ・社団法人孝仁会 心臓血管センター 北海道大野病院
- ・北海道テレビ放送株式会社 (敬称略)

ようこそ! 世界へ
KIRIN

おいしい、さっぱりと。

まるまる生茶葉抽出物加熱処理

NAMACHA® 生茶

のんだあとリサイクル。NAMACHA.jp 北海道キリンビバレッジ株式会社

もしものために積み立てよう

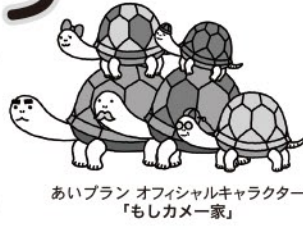
結婚式や葬儀など、人生の節目に訪れる大切なセレモニーをあいプランの互助会システムがしっかりサポート。

月々のわずかな積み立てで大きな安心を。

月額 2,000円 × 90回 = 180,000円 (総額)

※施行時に別途消費税相当額をお預かりいたします。

お問い合わせ・ご相談窓口 0120-335-924



公益財団法人北海道演劇財団にご支援をお願いします。

北海道演劇財団は、民間による演劇に特化した財団法人として、演劇で北海道の文化芸術を活発にし、道内各地で上質な舞台芸術に触れる機会を飛躍的に増やしてまいりました。今後もこれまでの活動に加え、未来を担う子どもたちや、地域で暮らす皆さんに、表現・創造・出会いの豊かさを伝える取り組みを助け、北海道にとって、演劇が必要不可欠な存在であると実感できるための事業を、さらに推し進めてまいります。なにとぞ、皆さまからのご支援を、お願い申し上げます。



ご寄付によるご支援

ご寄付は、税制上の優遇措置が受けられます。

法人および個人のご寄付の場合、優遇措置を受けるには確定申告の届け出と「寄付金受領書」(本財団発行)の添付が必要です。ご寄付に関する詳細と、「寄付金お申込書」のダウンロードは、ホームページをご覧ください。事務局までお問い合わせください。

<http://www.h-paf.ne.jp/support/>

QRコードからはコチラ



ご協賛・ご後援によるご支援

オフィシャルパートナーとしてのご支援を、お願いしています。

特別支援団体 年額/1口 50万円

- 広報紙「H-PAF NEWS」に貴団体の広告を掲載させていただきます。
- 劇場ロビー、広報紙、ホームページ、当財団が主催する公演のチラシ、劇場受付に掲示するパネルに貴団体のお名前・ロゴを掲載させていただきます。
- 当財団が主催する公演にご招待させていただきます。

協賛団体 年額/1口 5万円

- 広報紙「H-PAF NEWS」に貴団体のお名前を掲載させていただきます。
- 劇場受付に掲示するパネルに貴団体のお名前・ロゴを掲載させていただきます。
- 当財団が主催する公演にご招待させていただきます。

後援会会員 年額/1口 3万円

- 広報紙「H-PAF NEWS」に会員様のお名前を掲載させていただきます。
- 当財団が主催する公演のご案内を送付させていただきます。

ご寄付・オフィシャルパートナーについてのお問い合わせ、お申し込みは下記までご連絡ください。

公益財団法人北海道演劇財団 TEL.011-520-0710 E-MAIL office@h-paf.ne.jp

〒064-0811 札幌市中央区南11条西1丁目ファミール中島公園1F FAX.011-520-0712

NPO 法人 札幌座くらぶ 会員募集中!

札幌座くらぶは、観劇し続けることで楽しみながら演劇を応援する団体です。札幌座の他、シアターZOOのラインナップなど、厳選した作品をお楽しみ頂けるほか、サロンの会など俳優・演出家たちとの交流イベントも盛りだくさんです。

年会費/一般:14,000円/学生:10,000円/高校生以下:7,000円
お申込み・お問い合わせ TEL:011-522-6222 Mail:club@h-paf.ne.jp

特別支援団体

岩本・佐藤法律事務所
ホクレン農業協同組合連合会

(株)北洋銀行
(株)北海道新聞社

北海道テレビ放送(株)
(株)あいプラン

協賛団体

岩田地崎建設(株)
柿崎歯科
(株)エヌケイウォッシュ
(株)クリエイティブオフィスキュー
(株)じょうてつ

山藤三陽印刷(株)
酒林坊
創価学会
(株)創文
フルテック(株)

(株)ほくていホールディングス
北海道麒麟ビバレッジ(株)
(株)トップシーン札幌
Lákura

後援会会員

(株)アイフードコーポレーションTAMIS
秋山不動産(有)
アクトコール(株)
HTB映像(株)
特定医療法人社団慶愛会札幌花園病院
(株)HTBプロモーション
NPO法人音更町文化事業協会

(特非)札幌座くらぶ
札幌テレビ放送(株)
(株)サン設計事務所
スタジオコパン
(株)ステージアンサンブル
セイコーマートながい
(株)ダブルス

(株)東翔
(株)ノックアウト
(株)富士メガネ
北海道ガス(株)
北海道文化放送(株)
北海道放送(株)

私たちがお届けするおいしさは、
みんなをしあわせにするチカラ。

もっとおいしく、もっと遅しく。

大地のような、大きな夢と志で、
農と食の未来を、切り拓きたい。

北海道の農業は、そんな思いで、
次の100年も、歩み続けます。

つくる人を幸せに、食べる人を笑顔に

ホクレン

スペシャルムービー
公開中!

ホクレン 拓くぞ!未来 検索

森崎博之
ホクレン
アンバサダー

いつでも、どこでも、あなたのそばに。

北洋銀行
www.hokuyobank.co.jp